

(2026年 徳島県公立入試 類似)

1. 熊本県 2. 高知県 3. 愛媛県 4. 長野県

(2024年 群馬県公立入試 類似)

1. 観光客数は大幅に増加したものの、観光客1人あたりの消費額が急減したため、観光収入の総額は1978年当時の水準を維持するにとどまった。
2. 1978年と比較して、観光客数の増加率よりも観光収入の増加率が極端に低くなっており、観光産業の経済への影響力は年々低下している。
3. 観光客数はこの期間に8倍以上の増加率を記録しており、それまでの主要産業であった農業の生産額を統計開始直後に上回った。
4. 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。

福井県公立入試 類似)

1. 火山灰が堆積した層は水分を保持しにくいため、地下数十メートルの帯水層まで届く深い井戸が作られた。
2. 土地が非常に平坦で水が滞留しやすいため、住居を高く盛り土した「輪中」のような構造の中に井戸を掘った。
3. 水田稲作に適した粘土質の土壌が広がっているため、ため池を各地に作り、網の目のような用水路を張り巡らせた。
4. 地表の土壌が非常に硬く掘削が困難なため、遠方の河川から「疎水」と呼ばれる長い水路を引いて水を確保した。

(2023年 岡山県公立入試 類似)

1. 人口割合が面積割合を大きく上回っており、人や機能が高度に集中している。
2. 人口と面積の割合が同程度であるため、過密による交通渋滞などの問題が起こりにくい。
3. 面積割合が人口割合を大きく上回っており、居住空間にゆとりがある。
4. 人口の流出が激しく面積あたりの人口が減少しているため、過疎化対策が必要である。

東京都公立入試 類似)

1. 広大な平野部では、土砂の堆積によって形成された干拓地を利用した大規模な稲作が行われている。
2. 年間を通じて降水量が少なく乾燥しやすいため、平野部には「ため池」が各地に点在している。
3. 日本海側の気候の影響を強く受けるため、冬季には季節風による大量の降雪が見られる。
4. 火山群の周辺には多くの温泉が点在し、国立公園としての景観を活かした観光業が盛んである。

(2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 製造品出荷額の合計が、鉄鋼の伸びを大きく上回る5倍以上の規模にまで増加したため。
2. 北九州工業地帯の衰退により、福岡県全体の製造品出荷額が1970年より減少したため。
3. 鉄鋼の出荷額そのものが、1970年の水準を大きく下回る結果となったため。
4. 自動車などの輸送用機械の出荷額が、鉄鋼の増加額を下回るわずかな伸びに留まったため。

(2019年 山形県公立入試 類似)

1. 阪神工業地帯 2. 中京工業地帯 3. 北九州工業地帯 4. 京浜工業地帯

(2020年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大都市に近い立地を活かした近郊農業により、輸送コストを抑えて新鮮なうちに販売している。 | 2. 特定の作物のみを大量に生産する工芸作物の栽培により、生産コストを大幅に削減している。 | 3. 冷涼な気候を活かして成長を遅らせる抑制栽培により、夏場の需要に合わせて出荷している。 | 4. 暖かい気候を活かして成長を早める促成栽培により、競争相手が少ない時期に出荷している。 |
|--|---|---|---|

(2018年 沖縄県公立入試 類似)

1. 那覇市と豊見城市の間で、日中の買い物客の移動が双方に均等に行われていることを示している。
2. 那覇市ではドーナツ化現象により夜間人口が急減しており、豊見城市では都心回帰現象により夜間人口が急増している。
3. 那覇市は行政や経済の中心地としての役割が強く、豊見城市是那覇市へ通う人々の住宅都市としての側面が強い。
4. 那覇市は観光開発によって一時的な滞在者が増えており、豊見城市は農業を中心とした自給自足的な地域である。

(2025年 愛知県公立入試 類似)

1. 広島県・岡山県 2. 福岡県・鹿児島県 3. 愛媛県・香川県 4. 熊本県・徳島県

(2020年 静岡県公立入試 類似)

1. 九州地方の北部に位置し、北九州工業地帯を中心とした重化学工業が県の経済を支えている。
2. 九州地方の南東部に位置し、温暖な気候を利用したピーマンやキュウリの促成栽培が行われている。
3. 九州地方の中央部に位置し、阿蘇山のカルデラや広大な農林地帯での畑作が盛んである。
4. 九州北東部に位置し、別府温泉や由布院温泉などの豊富な温泉資源を活用した観光業が盛んである。

類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 特定の季節に収穫時期を早めることで、他の産地よりも高い価格で出荷する。 | 2. 限られた耕地を1年を通じて有効に活用し、異なる農産物を組み合わせることで生産する。 | 3. 温暖な気候を最大限に利用して、同じ種類の作物を年に2回収穫し、収穫量を増やす。 | 4. 地力の消耗を抑えるために、特定の季節には作物を植えずに土地を休ませる。 |
|--|--|--|--|